



1か月女児。胸に赤いあざがあります。

ります。



あざには、青、黒、茶、赤などいろいろな色と形があります。最近では、レーザー治療や内服薬など、治療は大進歩があります。一部は治療が可能なものがあるので、一度は病院の皮膚科、形成外科で診察を受けた方がよいでしょう。

青あざは「蒙古斑」が有名。おしり周辺にある以外は、異所性と言い、手の甲、足、肩などにできません。薄いものは12歳ぐらいまでには自然に消えますが、濃いものは成人でも残ることがあります。

「太田母斑」は、目の周り、頬にできる赤紫色のあざで、自然には消えません。レーザー治療が有効とされ、幼少期から始めるとより良い効果が期待できます。

黒いあざは、大ききと形はさまざま。5歳以上のものは

## あざ・・・色と形はさまざま

専門医の管理が必要。

茶色のあざは、表面は平らで、大きさもいろいろ。10円玉以上の大きさのものが6個以上ある場合は、診察を受けた方がよいでしょう。

赤いあざは、表面がイチゴのようにつぶつぶと盛り上がる「莓状血管腫」。生後1〜2週ごろにだんだん盛り上がってきて、4か月ごろに最大になり、4〜7歳くらいまでに自然に消失します。目が開けられない、呼吸が苦しいなど、できる場所によっては積極的な治療が必要となります。最近有効な経口薬が開発され保険で使うことができますので、専門医に相談を。

サームンパッチは、新生児のおよそ3分の1にみられる、額、目の上、鼻、鼻の下に見られる境界不明瞭な不整形の淡い赤色のあざです。1歳過ぎにはほぼ自然に消えます。〈水戸市中丸町の平野こどもクリニック院長・平野岳毅〉

